

安全性能

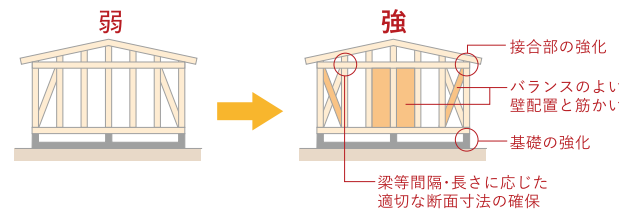


基礎、構造体、木材等 安全性に徹底的にこだわりました。

構造計算で強靱な構造体を確認。

当社で行っている構造計算は、壁の量だけで計算する壁量計算ではなく、建築基準法で規定されるあらゆる荷重(地震、台風、雪、人、衝撃等)に対して、各構造部材(柱、梁、床、壁等)が問題ないこと等を確認する計算方法で、より安心安全な強度のある住まいをご提供しています。

柱の間に斜めに入れる「筋かい」や構造用合板等の板状の「面材」を多く配置することにより、地震力に対する強さが増します。



Point

壁量計算とは地震や台風の力に対して必要な壁量があるか確認する簡易計算。2階建てまでの一般木造住宅においては耐震性を壁の量で測る簡便な方法として認められている。計算資料は数枚程度。

構造計算とは建築基準法で規定されたあらゆる荷重(固定荷重・積載荷重・長期荷重・短期荷重)を想定し、各構造部材の内部に生じる抵抗力を計算したもの。計算資料は数百枚に上る。

耐震等級3を標準設定。

日沼工務店は、全棟構造計算をすることで、国が定めた耐震等級の最高基準値「耐震等級3」を標準設定。地震が度々起こるこの国に、必要不可欠な備えです。

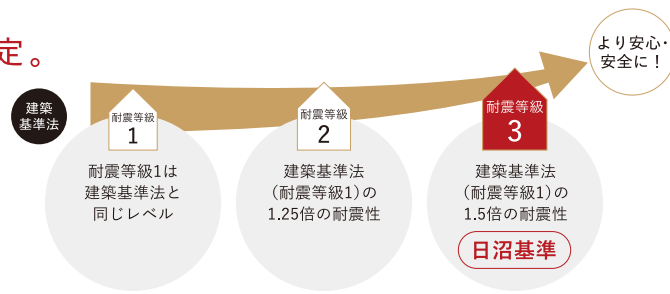
耐震等級

構造躯体の倒壊等防止

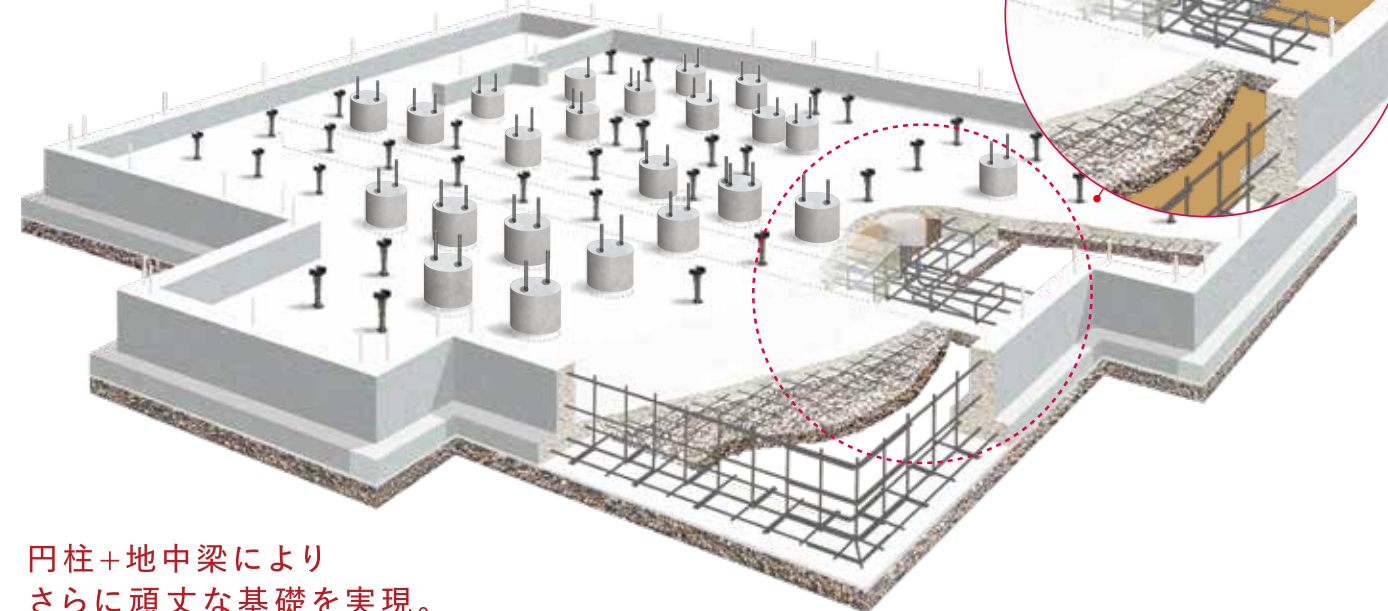
「地震に対する構造躯体の倒壊、崩壊等のしにくさ」を等級で表示します。極めて稀に(数百年に一度程度)発生する地震力※が建築基準法で定められており、これに耐えられるものを等級1としています。 ※想定する地震の揺れの強さは、東京を想定した場合、震度6強から7程度に相当。

構造躯体の損傷防止

「地震に対する構造躯体の損傷(大規模な修復工事を要する程度の著しい損傷)の生じにくさ」を等級で表示します。稀に(数十年に一度程度)発生する地震力※が建築基準法で定められており、これに耐えられるものを等級1としています。 ※想定する地震の揺れの強さは、東京を想定した場合、震度5強に相当。



ベタ基礎 [地中梁+コラム基礎]



円柱+地中梁により さらに頑丈な基礎を実現。

一般的な基礎は、各部屋を布基礎の立ち上がりで仕切った形状になり、湿気など床下の換気を均一に行うことが難しくなります。HAVE-S工法では、ベタ基礎を基本とし床換気を基礎のすみずみまで可能にするためにコラム基礎を施工し、円柱+地中梁により強固かつ完璧な空調を実現します。

耐風等級(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止)

「暴風に対する構造躯体の倒壊、崩壊等のしにくさ及び構造躯体の損傷(大規模な修復工事を要する程度の著しい損傷)の生じにくさ」を等級で表示します。

最高等級 等級2 建築基準法の1.2倍に標準設定
日沼基準



耐積雪等級(構造躯体の倒壊等防止及び損傷防止) 多雪区域のみ

「屋根の積雪に対する構造躯体の倒壊、崩壊等のしにくさ及び構造躯体の損傷(大規模な修復工事を要する程度の著しい損傷)の生じにくさ」を等級で表示します。

最高等級 等級2 建築基準法の1.2倍に標準設定
日沼基準



自然素材「ホウ酸」による木材劣化対策

ホウ酸は、木部に処理すると腐りにくく、害虫被害もなく、結果的に地震時にも強い住宅を実現する優れた木材の保存剤です。〈長期優良住宅に適合〉
また、ホウ酸は透明無臭で空气中に揮発もしません。安心安全、シックハウス症候群も起こさない、人・環境にやさしい自然素材です。そして、鉱物由来のため、効果は水分(雨)で流れ出ない限り恒常的に作用し続け、家を長期間維持します。

